



第43号

木曾川町連区



地域づくり協議会だより

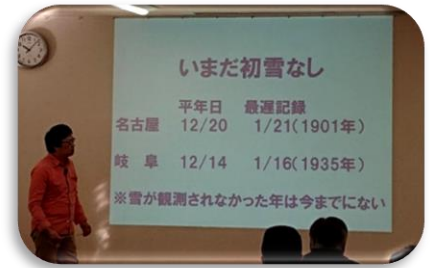
【発行日】令和2年4月1日 【発行者】木曾川町連区地域づくり協議会
 ☎木曾川町内割田一の通り127(一宮市木曾川庁舎内) ☎84-0005
 【メールアドレス】k-chiiki@orihime.ne.jp
 【ホームページ】http://138kisogawa.org 木曾川町連区で検索してね♪



↑
こちらからどうぞ

第5回「お天気講座」を開催しました

1月18日(土) 気象予報士の寺尾直樹さんによるお天気講座『もっとも難しい天気予報とは?』が開催されました。今回は『いまだ初雪なし』の話から始まりました。寺尾さんが気象予報士になって初めてのことだそうです。雪の予測はなかなか難しいらしく…今年2月頃には寒気が来て降るのではないかと…というお話でした。さて結果は???



☑ 2月10日に初雪を観測。119年ぶりの遅い初雪として記録更新をしました。



節分は2月3日ですが、本来は立春・立夏・立秋・立冬の前日を『節分』と言っていたそうです。季節の変わり目に邪気を追い払うという意味だそうですが、江戸時代以降から立春の前日をいうことが多くなったとのこと。

その他、春一番、恵方巻…とお話をさせていただきましたが、みなさん真剣に聞いて、うなづきながら、笑いあり楽しい時間があったという間に過ぎました。

認知症サポーター養成講座を開催しました

2月8日(土) 認知症サポーター養成講座～認知症になっても安心して暮らせる街づくり～を開催しました。コムネックスみづほの松井康明様をお招きして、木曾川町連区の区長、各町内会長をはじめ大勢の方々が参加してくださいました。

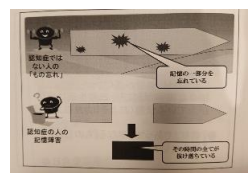
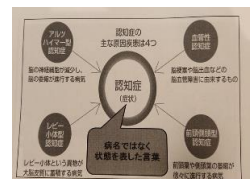
講座が始まる前に松井さんからの提案で、皆さんと一緒に頭の体操が始まり、右手を前に出しパー・左手を胸にグー、それを交互に動かします。初めの動きは皆さん揃っていましたが、少し動きを変えると…あれあれ? 皆さんの気持ちも身体もほぐれたところで認知症についてのお話が始まりました。



認知症とは、病名ではなく『症状』のこと。

主な原因疾患は4つありますが、その中の『レビー小体型認知症』のお話です。VR(バーチャルリアリティ)で、認知の方の見え方を映像で見せていただきました。

レビー小体型認知症の方がお友達の家に招待されたのですが、玄関からリビングに歩いてみると、置いてあるギターが膝を抱えて座っている男の人に見えたり、いるはずのない犬が走り回り突然消えたり、虫が見えたりします。



他の例として、デイサービスに行こうと、ケアマネジャーの方が『大丈夫ですよ。一歩ずつ足を前に出しましょう』と手をつないで言われたのですが、ご本人はビルの屋上で足を出してと言われているように見えていて、怖くて足が動かない、パニックになってしまう。この映像には受講している方からも思わず「うわー！」と驚きの声が出ていました。このように、現実ではないものが見える事を『幻視』といいます。

認知症の症状として

- 記憶が無くなり人の顔や名前を忘れてしまう
- 箸を持つことは分かるけど持ち方が分からない
- テレビのリモコンで電源が付けられない
- トイレと部屋の区別がつかず部屋の隅でおしっこをしてしまう

など、誰にでも起こりうる事、一緒に暮らしている人にも起こりうる事です。

そんな時・何か特別なことをするのではなく、出来る範囲で手助けをする。

↓
• 困っている姿を見たら、声掛けをする『どうかなさいましたか?』

認知症サポーター

「認知症」の事を理解し、見守る、助け合う意識を持った受講生の方は「認知症サポーター」となりました。「オレンジリング」の輪がまた広がりました。住み慣れた地域で安心して生活が送れるようになるには、そこに暮らす皆さんの力が何よりも大切だと思います。



HUGを開催しました

2月16日(日)に木曾川公民館(木曾川庁舎2階)で「HUG」を開催しました。HUG(ハグ)とは…H⇒避難所・U⇒運営・G⇒ゲームの略で、実際に木曾川町地区の指定避難所である、木曾川中学校・黒田小学校・木曾川東小学校・木曾川西小学校の4つの学校で、それぞれの地区の関係者の方にお集まりいただき、実際に災害が起きたことを想定して、避難所を運営していただきました。



皆さんゲームという場でしたが、いろいろと意見を出し合いながら、次々とやってくる避難者やイベントをこなしていく姿と、実際に起こるであろうことを体感していただき、有事の際にどうしなければならぬかを少しでも知っていただく機会となりました。最後に全チームそれぞれの考え方を発表していただき、参加者皆で共有できました。

今回は訓練でしたが、これが実際に起こるとなると多くの問題が出てきます。避難所が開設される際の鍵の問題や誰が責任者で運営していくのか? 屋内運動場の収容人数には限りがあるし、食料の配給方法のルールや避難者の登録作業、掲示板のルール、トイレの開設や伝染病対策、プライベート空間の作り方やペットの問題など…過去の被災された方の避難所の実際を見ても、想定されるだけでもいろいろなことが起こります。数字で表すと、避難所で過ごすことのできるのは、それぞれの指定避難場所単位で見ると、住民3000人のうち260名程度となるのが現実です。このHUG内の講習でもありましたが、災害時の避難は「自助」が求められます。自分の命は自分で守らなければならないという考えですが、もっと大事にすべきことは、こういう現実を知っておき、いつも備えておくことと感じています。

今回のHUGは、初めて木曾川町連区まちづくり協議会安全安心部会を中心に運営してみました。資料作りから事前の打ち合わせ調整まで、自分たちでやるからこそ学びが大きかったです。安全安心部会では、今後もこういった活動をつづけながら、情報発信をしてまいります。

